

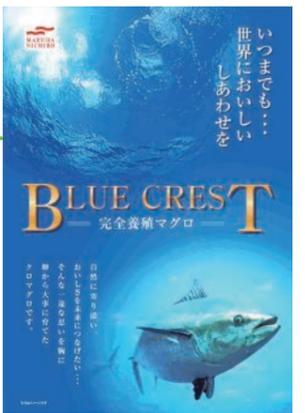
地球環境とともに

美しく豊かな自然環境を未来の世代に受け継いでいくためにマルハニチログループでは、生物多様性の保全活動や省エネルギー・地球温暖化防止対策など、環境負荷の低減に取り組んでいます。

マルハニチログループは、2015年4月、大分県佐伯市にある「アクアファーム」に、クロマグロ人工種苗専用養殖場を開設。養殖事業の中核拠点のひとつとして、完全養殖クロマグロの本格商業出荷を支えています。

IN FOCUS

完全養殖クロマグロ新ブランド「BLUE CREST」、誕生。



マグロ類の漁獲規制が年々強化されるなか、天然資源に頼らず、安定的にマグロを供給する手段として「完全養殖サイクルの確立」と「その商業出荷」への期待が寄せられています。

2010年に民間企業として初めてクロマグロの完全養殖に成功したマルハニチロは、2013年に事業規模での大量生産にめどを付け、2015年6月から商業出荷を開始しました。

そして2016年8月、完全養殖クロマグロの新ブランド「BLUE CREST」が誕生し、本格商業出荷が始まりました。クロマグロの英名「BLUE FIN TUNA」の「BLUE」と、「頂点」を意味する「CREST」とを組み合わせたこのブランド名には、「世界最高峰のクロマグロを供給したい」「青い地球、海の恵みであるクロマグロのおいしさを、世界に届けたい」というマルハニチログループの想いが込められています。

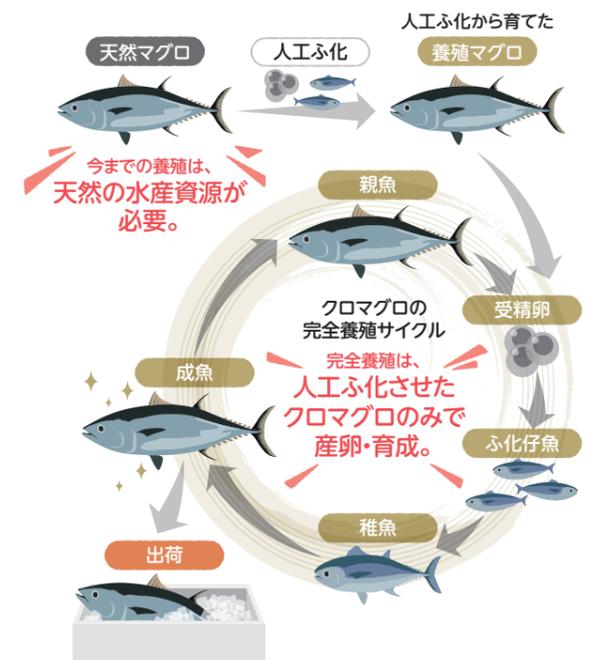
この新ブランドの立ち上げを契機に、完全養殖クロマグロの出荷量の拡大を図り、2018年度には年間1万尾、約600トンの出荷量の実現をめざしています。

マルハニチロは、卵から成魚までクロマグロの一貫生産を通じて、海洋生態系の保全とクロマグロの安定供給との両立を実現する持続可能な養殖事業を確立していきます。



? クロマグロの完全養殖とは

クロマグロの完全養殖とは、人工ふ化させたクロマグロを親魚に育て、その親魚が生んだ受精卵をふ化させ、幼魚から成魚にまで育てることです。完全養殖における最大の課題は卵がふ化してから稚魚が5センチに育つまでの生存率です。マルハニチロでは生育環境の改善や餌の工夫などを積み重ね着実にその生存率を高め、2006年の事業開始当初には0.1%に満たなかった生存率は2016年8月現在で3%にまで高めることに成功。こうした地道な成果が商業出荷の拡大を支えています。



VOICE

愛情を込めて育てた「BLUE CREST」を、自信をもってお客さまにお届けします。

私が働く奄美養魚では、年間約1,000トンのクロマグロを出荷しており、そのうちの約3割が完全養殖クロマグロです。完全養殖クロマグロは、卵から成魚に育つまでに約3年間の飼育期間が必要ですが、この間には、飼育に適した優良な卵の確保、稚魚の飼育、餌として与えるプランクトンの栄養強化、水温や照度といった飼育環境の調整など、さまざまな技術改良と飼育スタッフの努力が詰まっています。商業出荷の実現に関わるすべての人の思いを込めて、完全養殖クロマグロ「BLUE CREST」を、愛情を込めて育てています。

(有)奄美養魚 篠川支店 種苗課 神村 祐司

